

























一太郎石

昔の若者の力比に使われた石である。
多い人で十七回担いで村の中を回ったと言う。



イビガナシ

須子茂にはニヶ所のアシヤゲとトネヤがある

アシヤゲの隣に建っている石灰岩の自然石がイビと呼び
島立神として集落を守っている神様であり昔は茅葺き
のアシヤゲが神事を中心でありホボツ山から神が降りてき
て人家の中を通りアナタリのアシヤゲに歩いて行ったと言う。
六十五才以上の女性全員が神人で祭りを行っていた。























嚴島神社

寛政の頃年月日は不詳であるが峯田前田氏は旧家に生まれ常に信仰心厚く村人の尊敬を一身に集め私と捨て公に殉ずる一徳望の士がありました。

帰途海上安全を祈る為、さそやかなる神社を建立し村人の氏神様として鎮座し奉ったのを契機として以来数百年間今日に至るまで部落の守護神として参拝を続けて居ます。昭和十六年十一月度重なる台風により破損した箇所を補修。毎年旧暦九月九日には例祭を施行し部落の安泰を祈願すると共に峯田前田氏の徳を思ひつつ部落を挙げて一日を御祭りに興じて居る







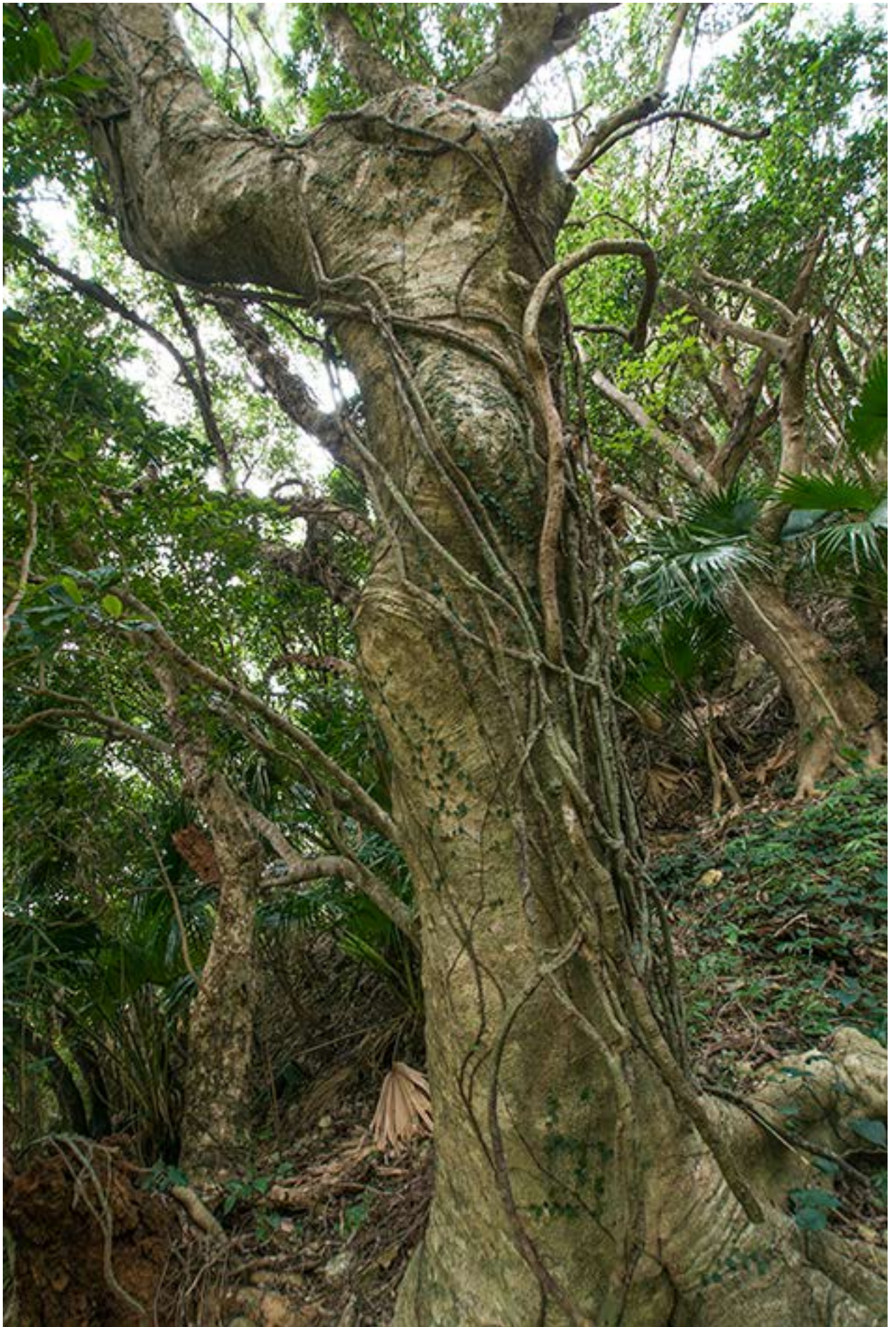
























	上り	下り	
1便	6:39	7: 39 46	須 子 茂
2	9:59	11: 39 08	
3	13:39	14: 39 48	
4	17: 39 04	18: 39 16	
加計呂麻バス 5-0447			







グンギンの神様

秋葉権現で部落を守り続けている火の神様である昔は板に名前を書き、当番順で部落の人達が掃除をしていた。旧の九月九日には日の丸を立てて皆で火災や災害が起らない様に六十五才以上の男子がゴンゲンの祭りに加わり部落を守っていた。





















古山
碑文

古山は林山とも言い、村の横守の柱として、古来村人から崇拝されてきた聖地「宮」からトキイヤ、アシヤゲエまでは一直線上に連なっている

嘗ては十数本あった黒松の巨木も朽ちて、今では八本に減っているが、今尚村のシンボルとして愛されている

旧暦九月九日にはお神酒や酒肴を備えて五穀豊穡や家内安全・徳光の一掃の祭事を辨り、戦前戦時中は出征兵士の式送交文を辨贈し、長く人々の心の拠所であった。

平成二十一年一月吉日

ふるさとふる生活活性化推進委員会

















































